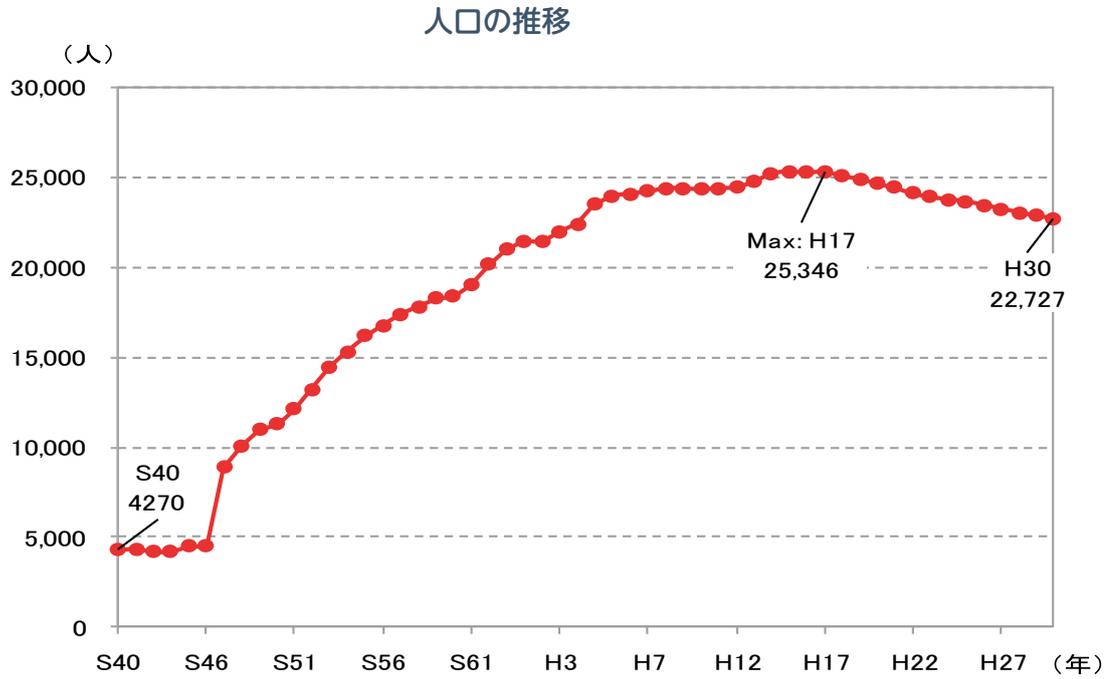


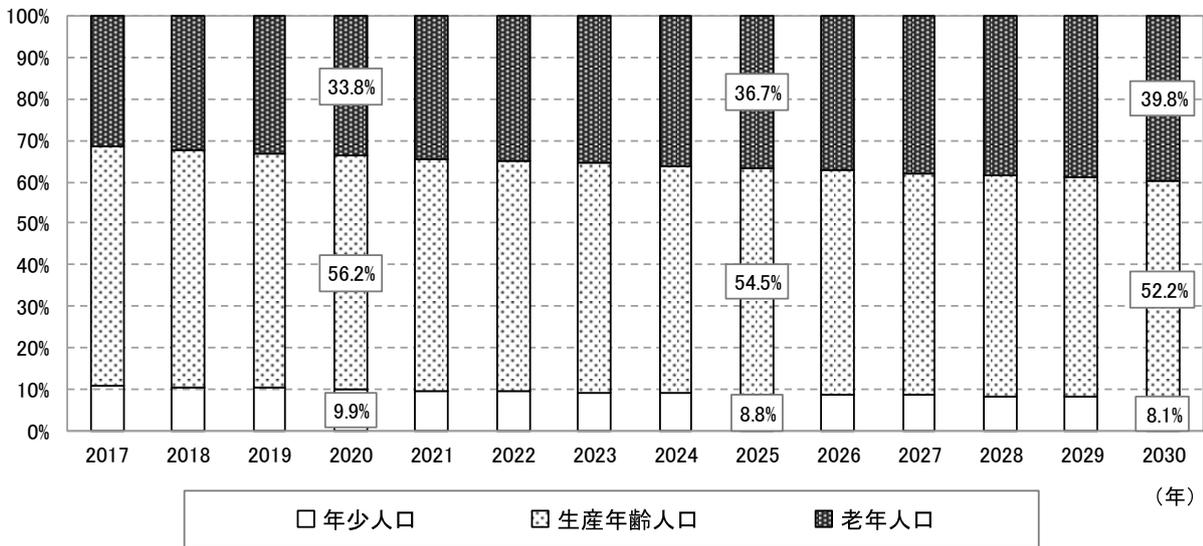
# 第2 データから見た上牧町の子どもたちの状況

## 1 人口・児童生徒数

### (1)人口



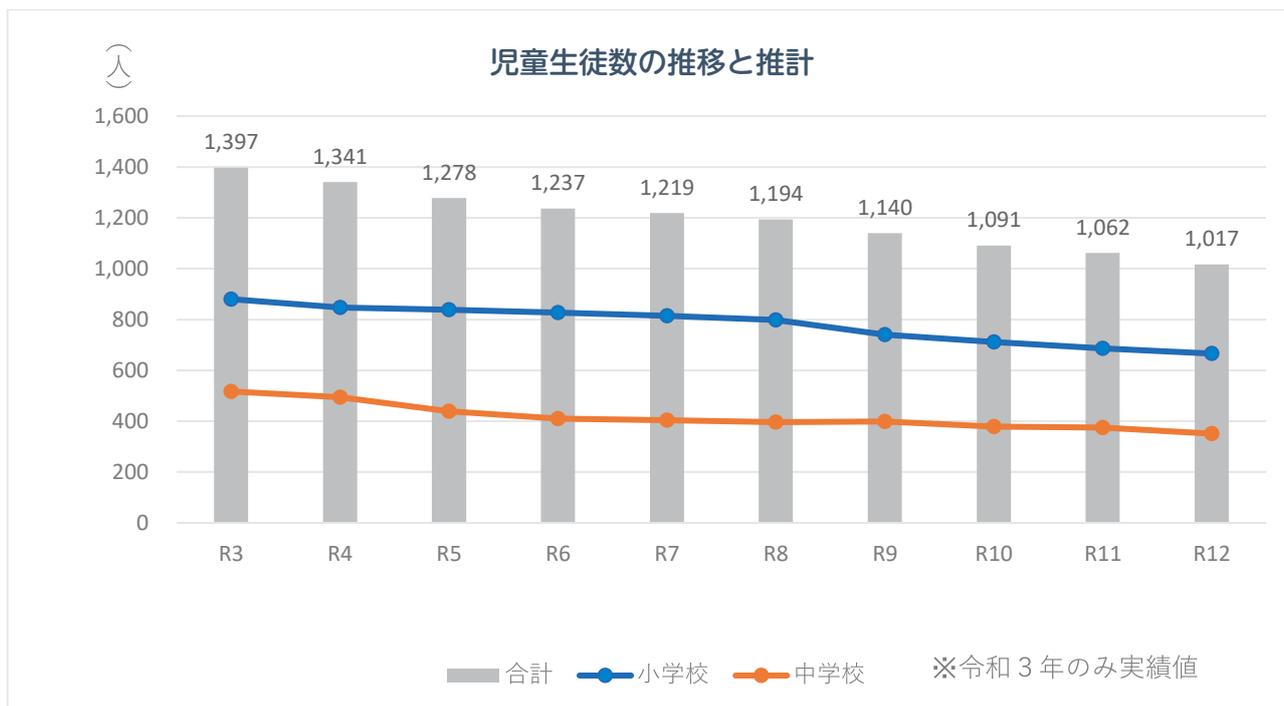
### 年齢3区分別の人口割合の推移と推計



(令和元年度(2019年度)改訂版 上牧町人口ビジョン)

- 本町では、平成17年(2015年)をピークに出生率の低下や若年層を中心とした転出過多により、人口減少が続いています。

## (2) 児童生徒数

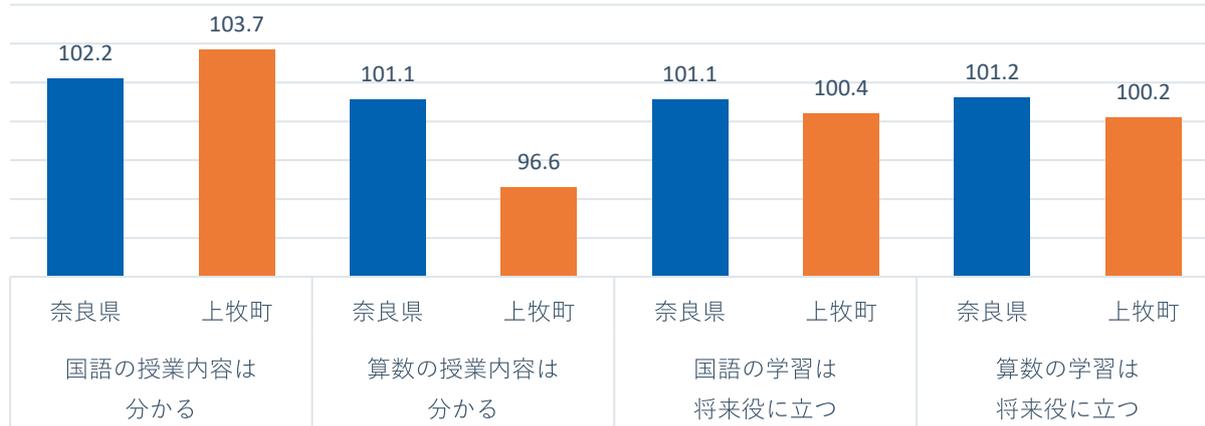
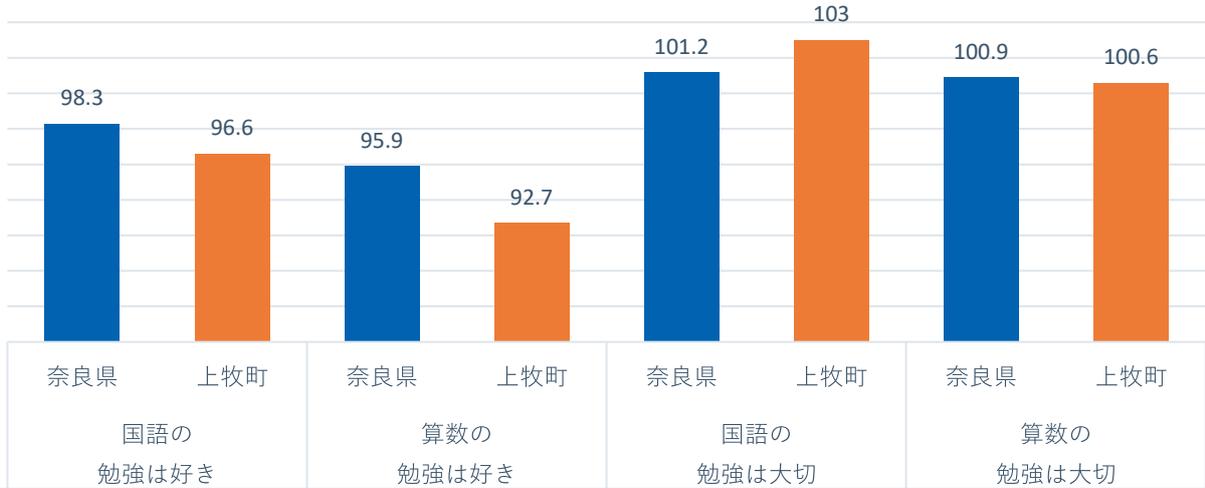


- 本町の児童生徒数は、令和3年（2021年）に1,397名となりました。今後は、小学校、中学校ともに減少傾向にあります。

## 2 学習への関心・意欲について

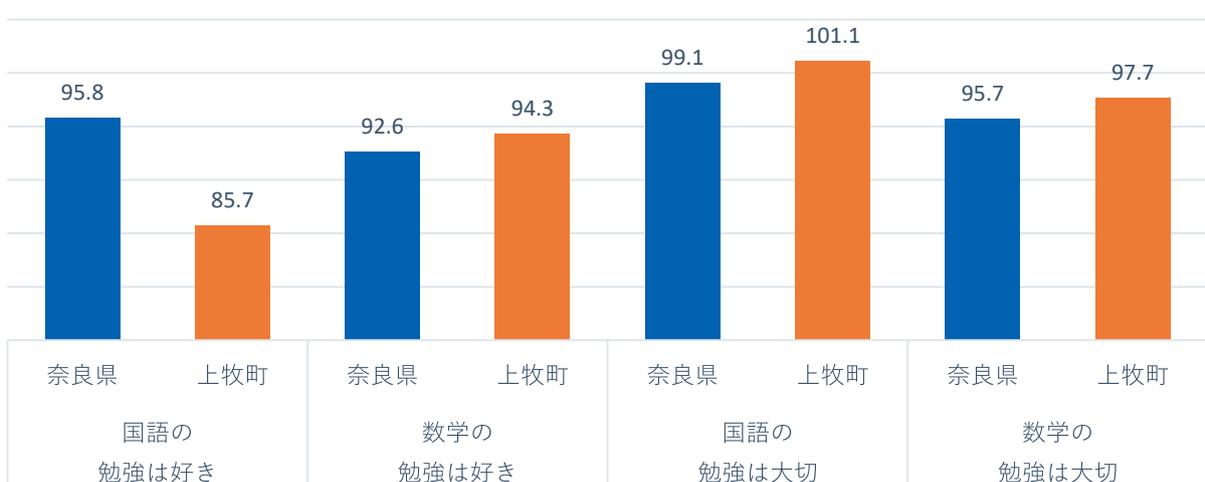
## 子どもの学習への関心・意欲【小学校】

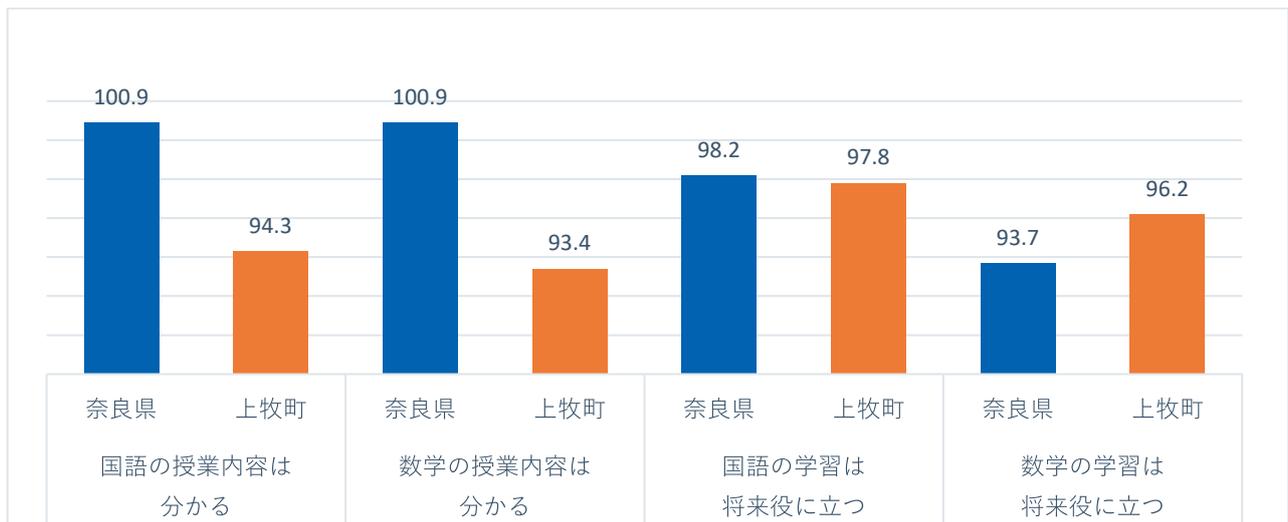
〔全国平均を100とした時の肯定的回答の割合〕



## 子どもの学習への関心・意欲【中学校】

〔全国平均を100とした時の肯定的回答の割合〕





(令和元年度(2019年度)全国学力・学習状況調査)

●学習への関心・意欲に関する質問項目について肯定的回答をした児童生徒の割合が、小学校で5つの項目、中学校で1つの項目で全国平均を上回っている。

◆小学生は、国語の勉強は大切で将来役に立つと考えており、授業の内容もよく理解している。国語の勉強が好きな児童の割合が少し低いので、さらに魅力ある授業を創造し、読書活動も推進していく必要がある。

算数では、算数の勉強は大切で将来役に立つと考えているが、算数が好きという児童の割合が低くなっている。授業内容がよくわかる児童の割合も低いので、ICTを活用して学習意欲や内容の理解、定着につなげる工夫をしていく必要がある。

◆中学生は、国語の勉強は大切で将来役に立つと考えているが、国語の勉強が好きな生徒の割合は低く、授業内容をよく理解している生徒の割合も低位にある。より一層わかりやすい授業を展開し、国語の時間を楽しみにする生徒を増やしていきたい。

数学については、数学の勉強は大切で将来役に立つと認識しており、数学が好きな生徒の割合も比較的高い。反面、授業内容がよくわかる生徒の割合が低く課題となっている。少人数指導などきめ細やかな学習指導を継続して、一人ひとりの苦手な単元の克服に努めなければならない。

●本町の子どもたちの学力については、小学校算数、中学校国語、中学校英語において県平均を少し下回っている。小学校国語、中学校数学においてかなり下回っている。

◆小学校(3校)の傾向

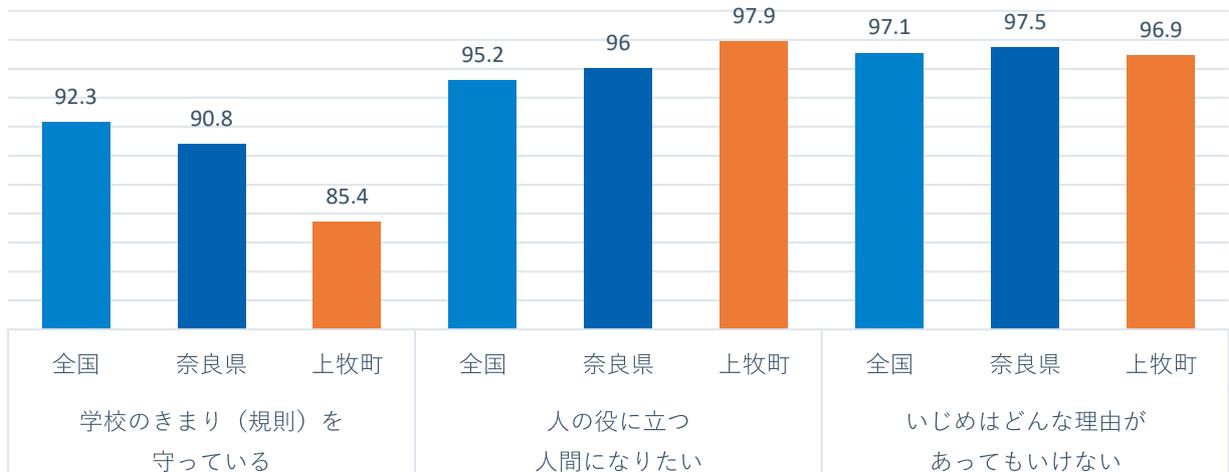
- ・国語は、「読むこと」「話すこと・聞くこと」の分野に比べて「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の分野が弱い傾向となっている。
- ・算数は、「図形」の分野は一定の成績であるが、「数と計算」「量と測定」「数量関係」がやや弱い傾向にある。

◆中学校(2校)の傾向

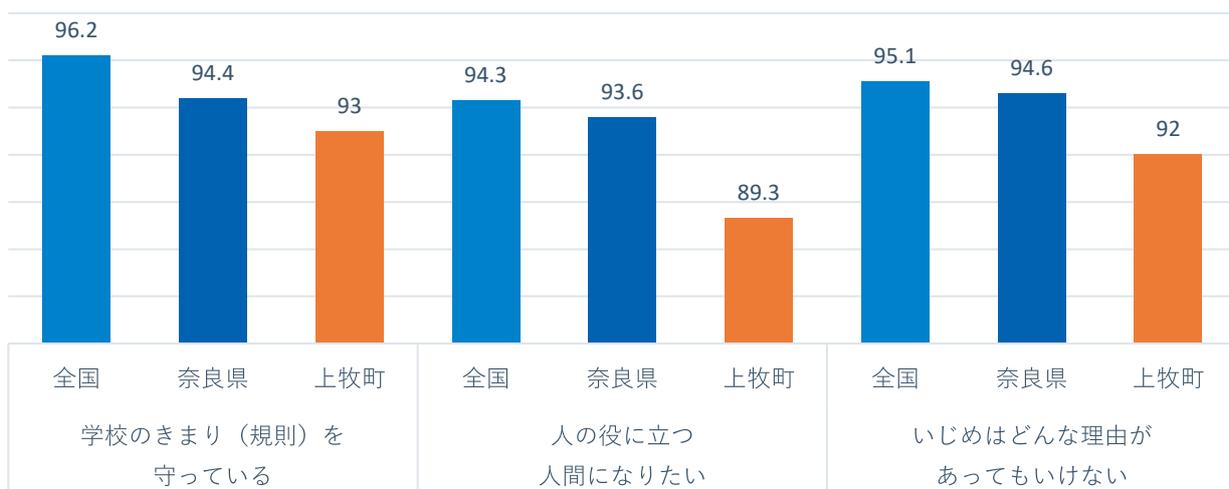
- ・国語は、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の分野で健闘しているが、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の分野で理解不足がある。
- ・数学は、「関数」「図形」の分野に比べて「数と式」「資料の活用」を苦手としている。
- ・英語は、「聞くこと」の分野で県と同じレベルにあるが、「読むこと」「書くこと」に課題を残している。

## 3 規範意識・自分自身に対する意識について

規範意識・自分自身に対する意識【小学校】



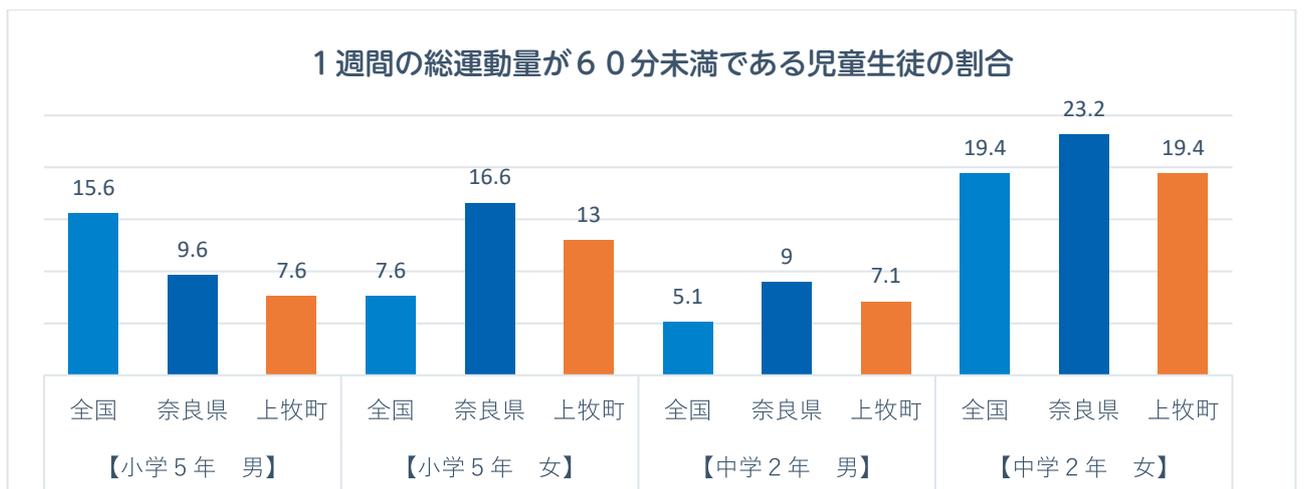
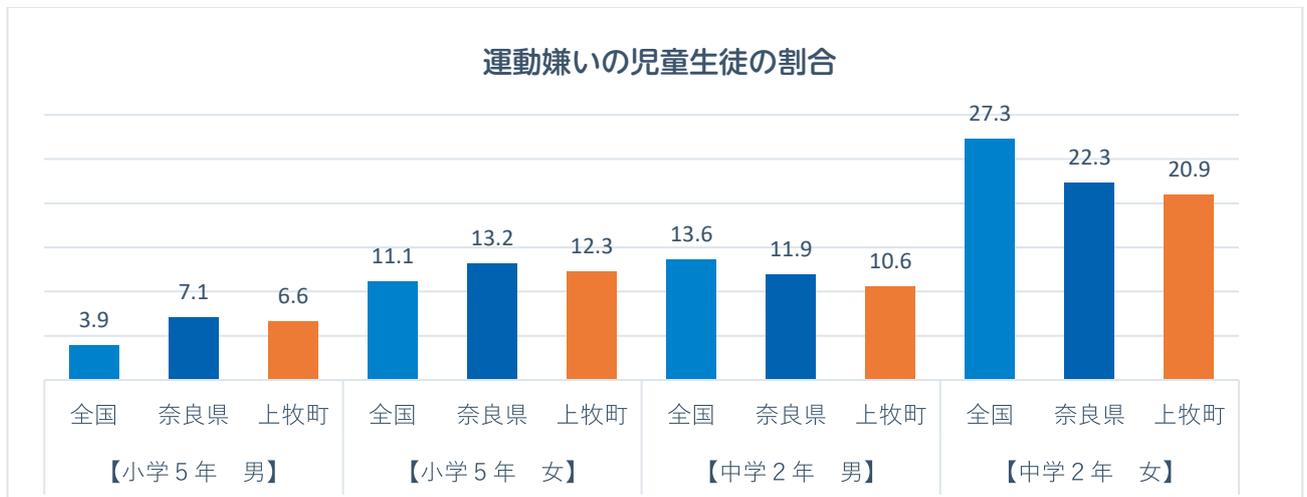
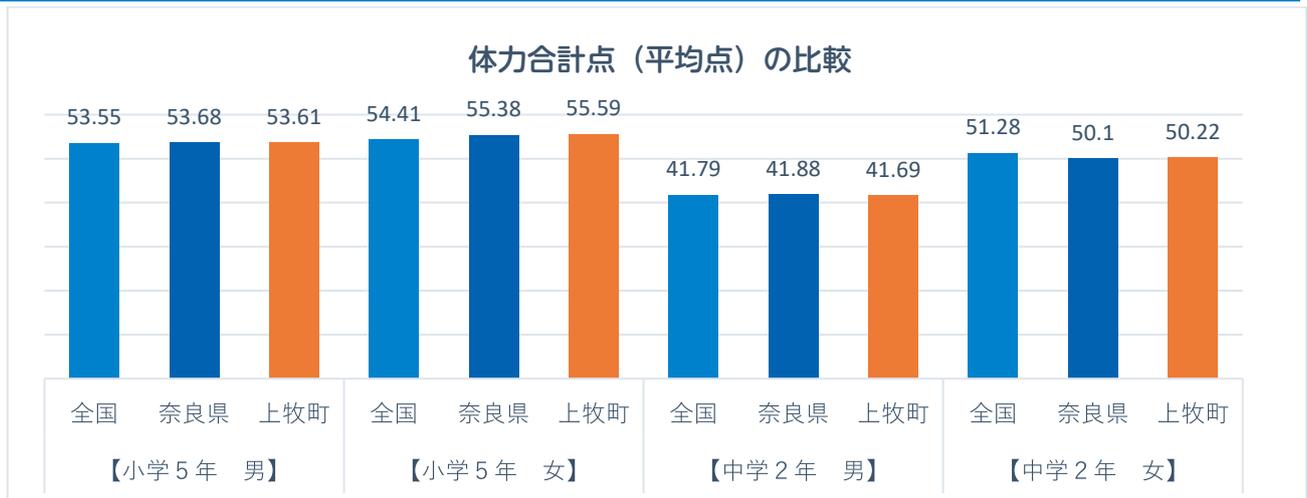
規範意識・自分自身に対する意識【中学校】



(令和元年度（2019年度） 全国学力・学習状況調査)

- 「学校のきまり(規則)を守っている」と回答した児童生徒の割合は、小学生、中学生とも全国平均を下回っており課題となっている。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童生徒の割合は、小学生では全国平均より高いが、中学生ではかなり低下しており分析をすすめたい。
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した児童生徒の割合は、小学生は全国平均と同じ程度であったが、中学生では低くなっており対策が必要である。

## 4 体力・運動習慣について



（令和元年度（2019年度）全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

- 体力合計点では、小学生は男子女子とも全国平均を少し上回っている。中学生は男子女子とも全国平均にわずかながら及ばない。しかし、その差は僅差であり、概ね標準的な体力を維持できていると考えられる。気を緩めず子どもたちの体力向上に力を注ぎたい。

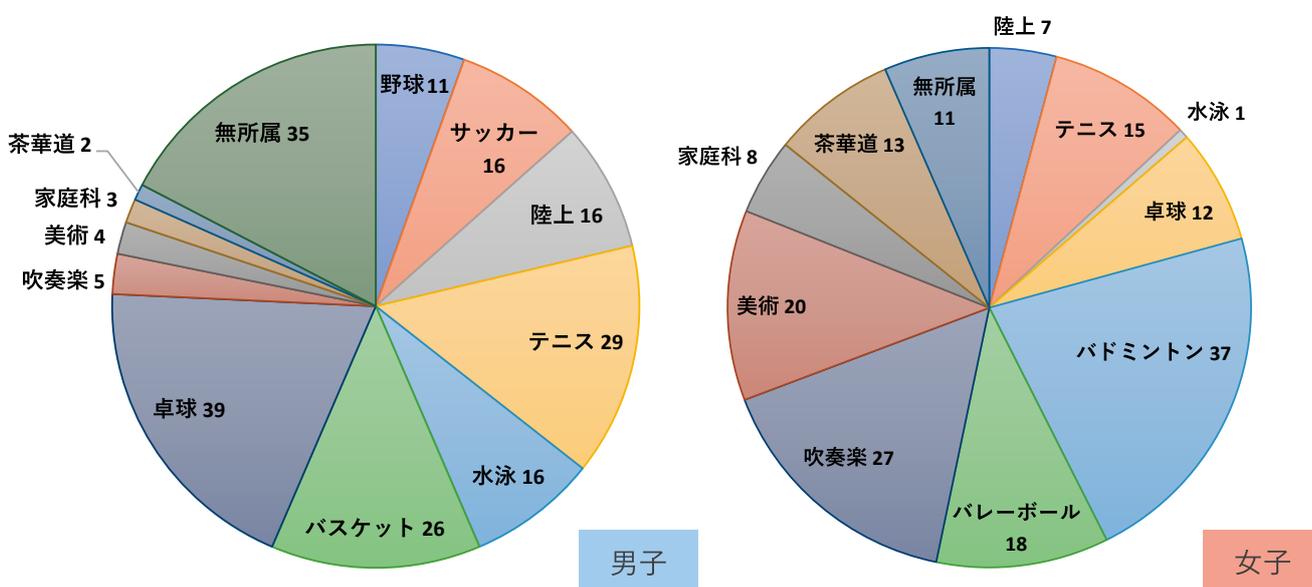
●運動嫌いの児童生徒の割合は、中学生で男子女子とも全国平均より少なく、小学生女子で全国平均レベル、小学生男子で多くなっている。年齢が上がるほど運動嫌いが減少しており、学校体育の成果と言えるので引き続き体力向上に努めていく。

●1週間の総運動量が60分未満である児童生徒の割合は、小学生で男子は全国平均をかなり下回り、女子で上回っている。中学生は男子女子とも、全国平均レベルである。中学生になり運動する時間が減少してきているが、概して小中学生とも運動時間は標準的と言える。小学生女子についてはやや運動不足であるので対策を講じていきたい。

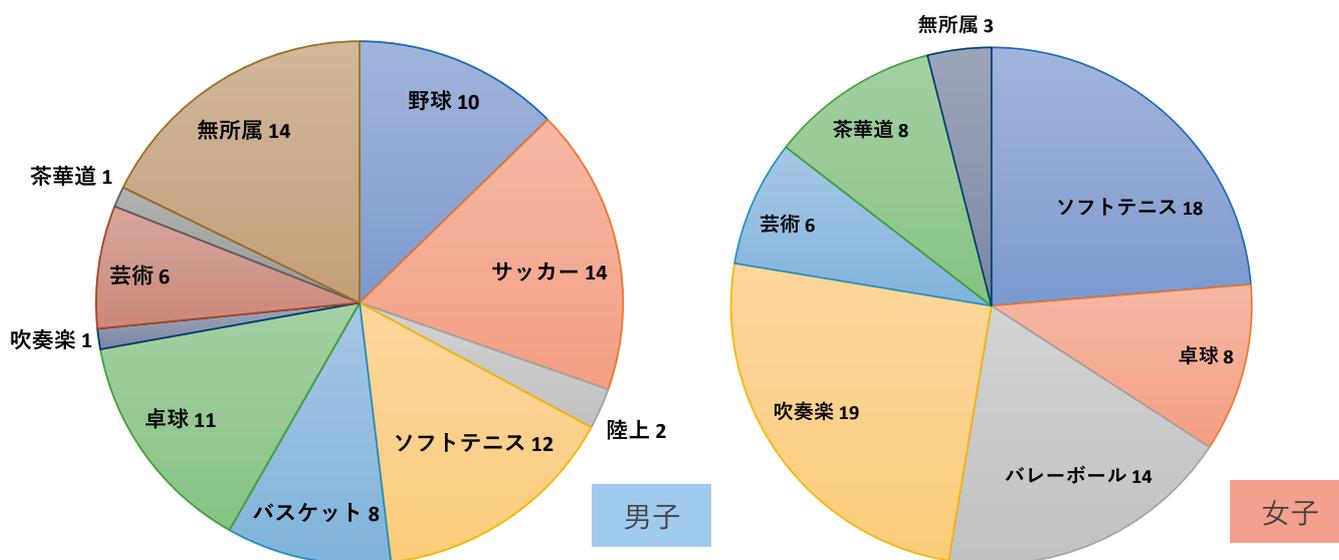
## 5 その他

(1) 中学校のクラブ所属状況（令和2年度（2020年度））

【上牧中学校】



【上牧第二中学校】



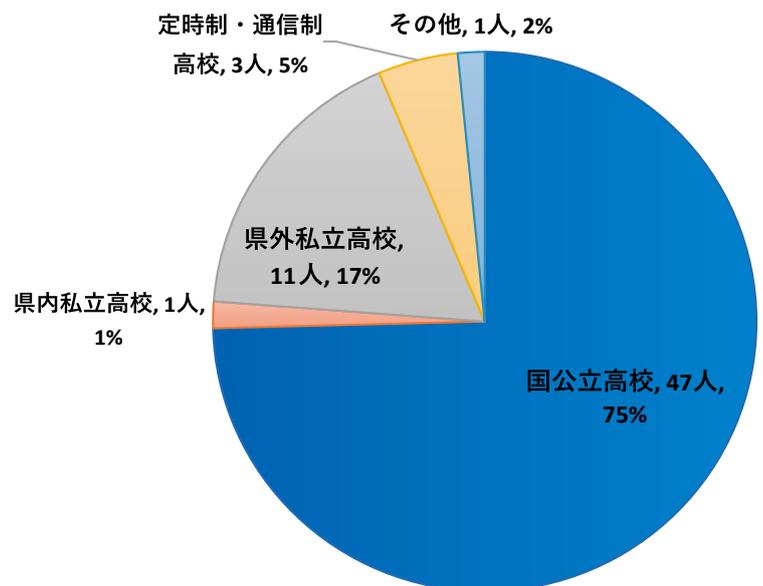
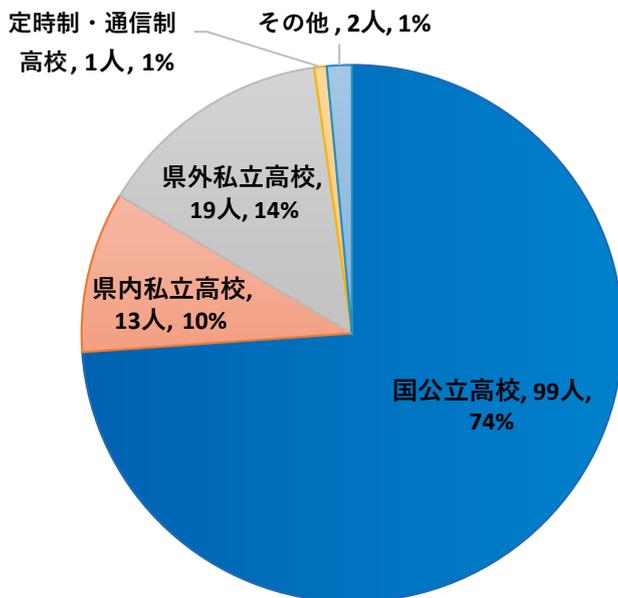
クラブ活動	クラブ活動所属数			クラブ活動無所属数			学校 計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
上牧中学校	167人	158人	325人	35人	11人	46人	202人	169人	371人
第二中学校	65人	73人	138人	14人	3人	17人	79人	76人	155人
中学校 計	232人	231人	463人	49人	14人	63人	281人	245人	526人

- 中学校のクラブ活動については、両中学校とも、クラブ活動に全員が入部する制度をやめているため、クラブ活動に入部する生徒が徐々に減少してきている。様々な種目のスポーツ選手の活躍がテレビ等で報じられ、生徒のクラブ活動の選択にも影響が及んでいると考えられる。近年は、チームスポーツより個人スポーツのクラブ活動が人気である。また、より専門的な指導を求め、民間のクラブチームに所属する生徒も一定数いる。

(2) 中学校卒業後の進路について（令和2年度（2020年度））

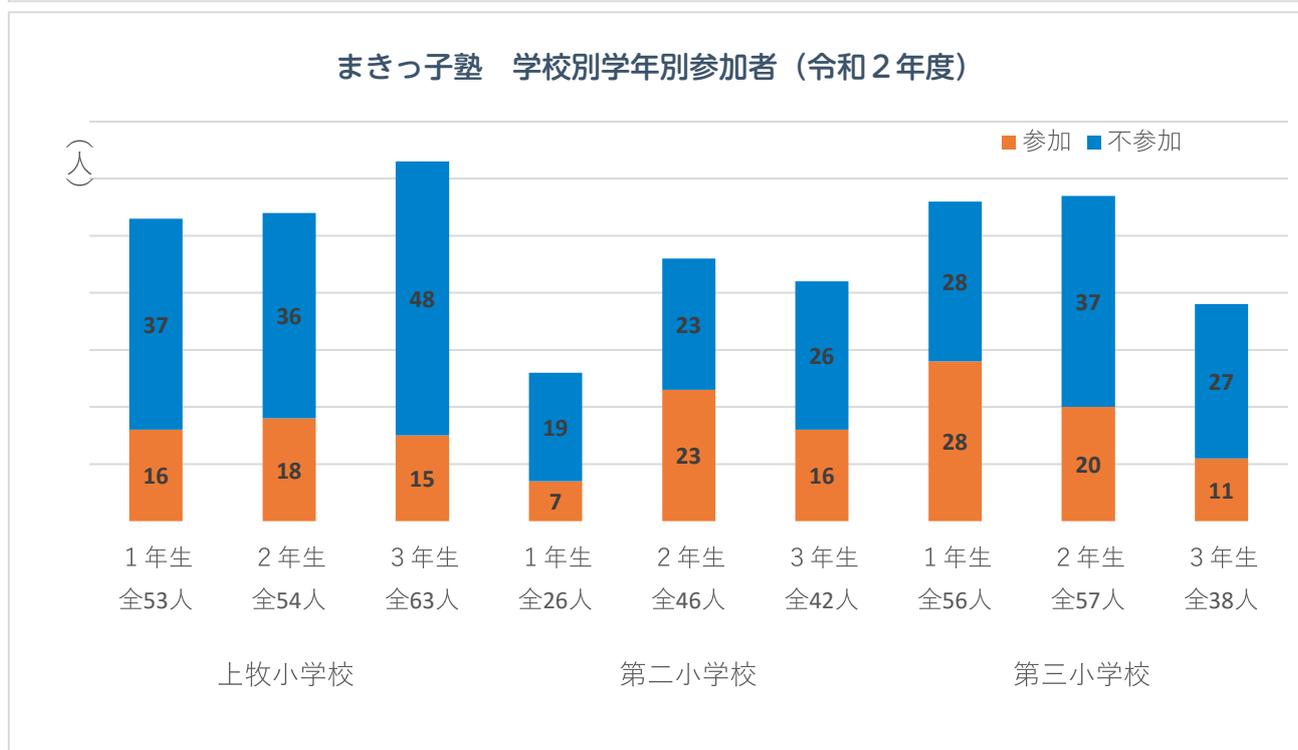
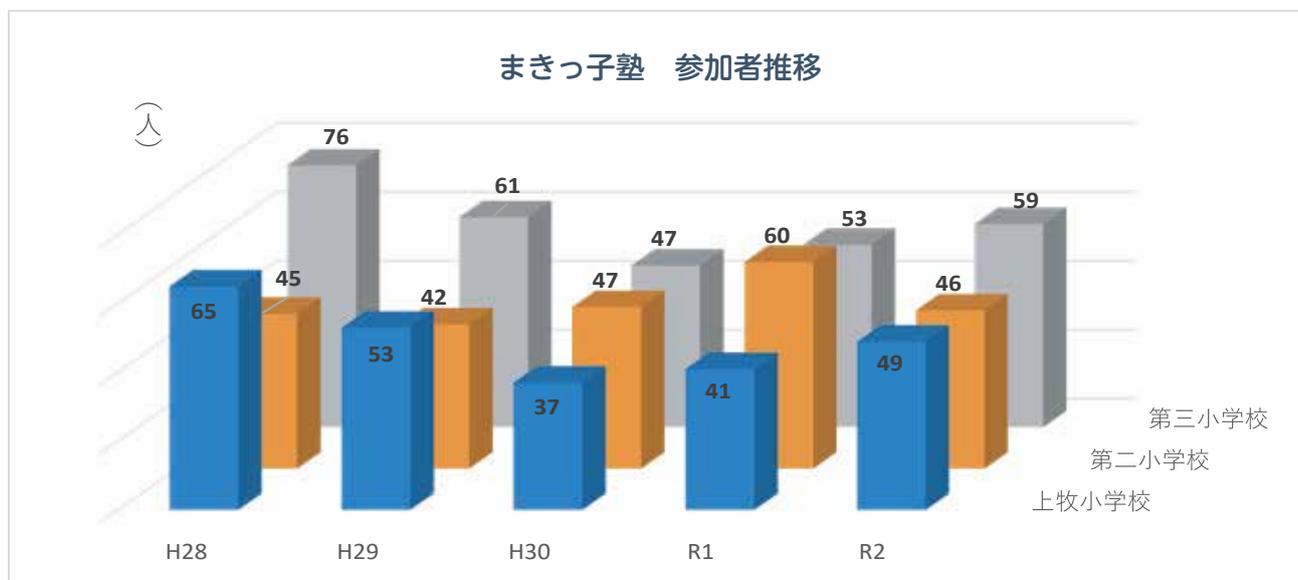
【上牧中学校】

【上牧第二中学校】



- 中学校卒業後の進路については、両中学校とも、公立高校への希望が多く、約70%強の生徒が県内公立高校に進学している。卒業生全員が進路を決定しており、進路未定者はいない。

## (3) まきっ子塾の参加状況について



## ● 「まきっ子塾」令和元年度（2019年度）参加者（保護者・児童）アンケートより

156名中79名から回答があり、概ね高評価をいただき、保護者からは、「宿題をするように言わなくて済むようになった」「親のゆとり時間が増えた」という意見が多数ありました。家庭学習の定着や家庭の負担軽減につながっていると評価できます。また、「子どもが楽しんでいた」「学校の授業とは異なる環境で、様々な先生に見ていただきながら学習することが、子どもにとって励みになっている」「以前より勉強をするようになった」等の保護者としての喜びの声もいただきました。

児童からは、否定的な意見はほとんどなく、「まきっ子塾」に参加して「とてもよかった」また「よかった」と答えた割合が98.8%で、ほとんどの児童が満足しています。今後もさらなる子どもたちの基礎学力の向上や家庭学習の定着を目指すとともに、家庭の負担軽減となることを目的に、今一層の充実を図ります。